

二〇二〇年七月

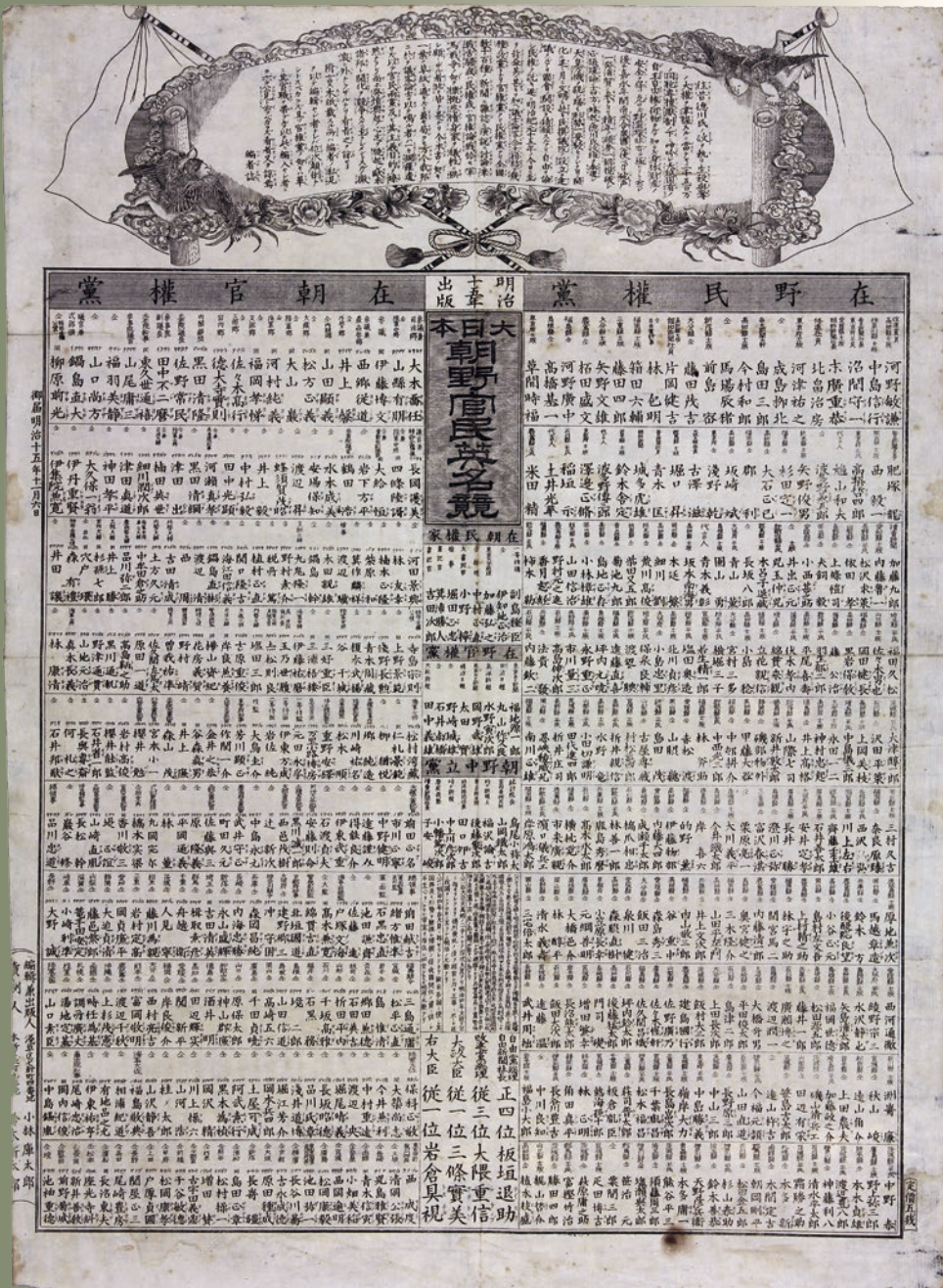
通巻142号

沼津市明治史料館通信

大日本朝野官民英名競 (明治一五年 (一八八二) 刊) 当館蔵

番付風に、右側には「在野民権党」、左側には「在朝官権党」の人名が対比される。沼津兵学校関係人物では、前者に島田三郎、後者に西周・赤松則良・大築尚志・浅井道博、中央の「朝野中立党」に田口卯吉の名がある。ただし編者も記すように、官権党の多くは単に官職にあった者であり、必ずしも政治的主張を持っていたわけではない。また、田口卯吉は中立党というよりも、民権党に入れるべきであろう。他にも沼間守一・成島柳北・前島密・加藤弘之・中村正直・福地源一郎・山岡鉄太郎・福沢諭吉・津田真道・神田孝平・関口隆吉・榎本武揚・塩田三郎・郷純造・松本順・大鳥圭介・宮本小一・人見寧らの名前が見られ、朝野に占める旧幕臣名士の存在感がうかがえる。

(樋口彦彦)



加藤重成と荒畑岩次郎 —ある旧幕臣の兄弟—

箱館戦争に参戦した少年兵

榎本武揚率いる旧幕府軍の一員として箱館戦争を戦った中に加藤國藏（「国造」「國三」と記載する例もあり）という人物がいた。肩書は総裁付少年もしくは召使とされており、年齢は一六歳だった。年少ということで、総裁榎本に近侍したのであろう。同年齢の同僚には、坂本龍馬を暗殺した京都見廻組隊士今井信郎の弟今井省三がいた。脱走前は、海軍所の湯呑所出役だったらしい。敗戦・降伏後は謹慎生活を送った後、赦免され静岡藩に帰参したものと思われる。箱館戦争降伏人の多くは、藩庁所在地である静岡、東京に近い沼津ではなく、徳川家への引き渡しが遅かったため居住藩士が少なかった遠州を移住地に指定された者が多かったようなので、加藤も浜松に住むことになったのだろう。



加藤重成
宮内庁三の丸尚蔵館所蔵

明治12年（1879）海軍少尉、27歳の時

浜松から沼津兵学校へ

ただし、加藤が浜松に住んだ理由には、親族が先に浜松に移住していたという可能性もある。加藤の実父は荒畑政太郎といい、旧幕臣・静岡藩士として浜松に割付となっていたのである。二歳ほど年少の、加藤の実弟は荒畑岩次郎だったが、廃藩直後の明治五年（一八七二）頃には浜松の父のもとを離れ、沼津兵学校の生徒となっていた。他に浜松勤番組から選抜され、沼津兵学校で修業することになった若者には、資業生に及第した川住義謙（録郎）・小田新太郎・木村才藏らがいた。

なお、幕臣としての荒畑家・加藤家の由緒は詳しくわからない。子孫の言い伝えでは、政太郎が甲斐国から江戸へ出て、寺男をつとめた後、武士の身分を手に入れたとされる。次男に荒畑家を継がせ、長男には御家人株を買って独立させ、加藤家を相続させたい。政太郎の旧幕時代の地位や職務も不明である。

海軍水路部での活躍

静岡藩時代の兄加藤國藏の動静は不明である。しかし、明治五年四月には、東京で測量術の試験を受けた結果、見込みありとのことで、海軍省水路局に奉職することとなった。その時は「浜松県士族」という族籍だった。五月には二等測

量生から一等測量生への昇進が申請されている。その後、名を國藏から重成に改めたようである。重成が箱館戦争に参加した國造・國三と同一人物であることを示す確かな裏付けは、現時点では文書にせよ伝聞にせよ得られていないが、ほぼ年齢が一致することからも間違いないと考える。

以後、水路寮十五等出仕、水路局量地課副長、水路部測量課班長といった経歴をたどり、一貫して海軍の海図作成部門で仕事を続けた。柳栖悦・大伴（肝付）兼行・三浦義深らとともに測量を担当した海図は、『武蔵国東京海湾図』（一八七三年）、『琉球国運天港之図』（一八七四年）、『相模国浦賀港之図』（一八七八年）などとして刊行された。また、『水路雜誌』、『観象雜誌』といった専門雑誌にも論考をたびたび投稿している。六年（一八七三）一月には水路寮十一等出仕から海軍少尉となり、文官から武官に転じた。三〇年（一八九七）には沿岸測量を任務とした軍艦警城の艦長に就任し、階級も最終的には三一年（一八九八）に海軍大佐に昇った。三四年（一九〇一）六月五日には父政太郎を亡くしているが、新聞に出した死亡広告や会葬に対する答礼広告は兄弟連名でのものだった。重成自身が亡くなったのは三九年（一九〇六）五月二〇日、五三歳の時である。

荒畑岩次郎も兄と同じく海軍水路寮（後水路局・水路部）に入り、同様の仕事に従事した。台湾・韓国などでも水路測量を行い、日露戦争にも出征した。海軍水路大監・大佐に進み、大正一二年（一九二三）一月二五日に六八歳で没した。

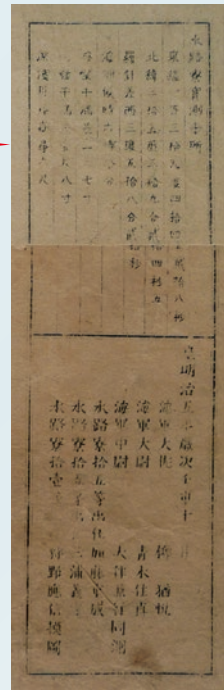
水路寮（水路部）には先に名前が登場した肝付・青木のように薩長出身者もいたが、重成にとっては箱館戦争の戦友五藤國幹、岩次郎にとつては沼津兵学校での恩師伴鉄太郎ら、旧幕府海軍以来の人材が先輩・上司となっており、技術系の旧幕臣たちが顔をそろえる職場でもあった。

渡瀬寅次郎と興農学園

重成の長男成一（一八七九年生まれ）は江原素六が校長をつとめる麻布中学校に学んだらしい。成一は東京帝国大学工科大学造船学科を卒

業、農商務省に奉職し、水産講習所技師・特許局審査官・通信技師などを歴任し、退官後も帝國海事協会技師をつとめた。『遠洋漁船』（一九一四年）、『最近の商船』（一九二〇年）といった著作もある。

成一の妻はるゑは、沼津兵学校附属小学校か



『武蔵国東京海湾図』
個人蔵

明治6年（1873）刊。右下の枠内には測量従事者として「海軍大佐柳槽悦」以下、「水路寮拾五等出仕加藤重成」らの名前が印刷されている。加藤と並んで名前が記されている同職の三浦義深（旧名義三郎、後に海軍少佐、1927年没・73歳）は、菊間藩出身の海軍兵学権中属三浦義路（治作）の息子だった。

ら札幌農学校に進学し、種苗販売会社東京興農園を経営する実業家として成功した渡瀬寅次郎の次女だった。渡瀬は東洋英和学校・麻布中学校で教鞭をとっていたこともあり、その頃、生徒だった成一と知り合ったのかもしれない。それとも、すでに明治初年の沼津兵学校時代に荒畑岩次郎を通じて、渡瀬・加藤両家には何らかのつながりが生じていたものか。渡瀬の遺言により静岡県田方郡西浦村久連にデンマーク式・キリスト教主義の農学校興農学園が設立されたが、成一は昭和十七年（一九四二）時点で、小坂順造・植村甲午郎・松前重義らとともに財団法人興農学園の理事六名の一人となっていた。また、父祖の由緒も意識していたようで、大正二年（一九一三）時点で旧幕臣の親睦団体である葬会（明治四四年結成）に入会していた。小文の執筆には、重成の子孫にあたる加藤健・土肥泰彦の諸氏から協力を得た。記して感謝申し上げる次第である。

〔参考文献〕

「遊撃隊起終録」（函館市立函館図書館所蔵）、栗賀大介『箱館戦争始末記』（一九七三年、新人物往来社）、『明治維新に於ける徳川脱藩人事典』（二〇一九年、徳川脱藩人調査会）、『明治過去帳』（一九七一年復刻、東京美術）、『海軍士官総覧』（二〇〇三年復刻、柏書房）、中西良夫『品川湾図』考『武蔵国東京海湾図』解説―（『地図』第六巻第四号、一九六八年）、『明治初期静岡岡県史料』第四卷（一九七〇年）、『人事興信録 第十版』（一九三四年）、『葬会規則并名簿』（一九一三年）、『財団法人興農学園案内』（一九四二年）（樋口雄彦）

江原素六学習作品展 ~子どもたちが見た江原素六~

当館春の恒例行事となっている「そろくまつり」ですが、今年度は新型コロナウイルスの影響で残念ながら中止となってしまいました。しかしながら昨年度の「江原素六学習」の作品をお蔵入りにするのはもったいないので、作品展だけは開催します。今年度は金岡小学校・沢田小学校・門池小学校の3校から出品していただきました。例年よりも開催期間を延長して8月30日(日)まで開催しています。ぜひご来館ください。

開催中
8月30日(日)まで



《江原素六学習とは》

小学4年生の総合学習として「地域の偉人」について学ぶ授業があり、金岡地区周辺の小学校では江原先生について、グループ学習のかたちで取り組んでいるものです。まず江原先生がどんな方だったのか、当館の展示を見て学習の糸口を探し、テーマを決めて調べ学習を進めます。また机上の学習だけでなくとどまらず、顕彰会の方々とのフィールドワークで、先生の業績に触れます。時間をかけ、手間をかけ、グループで協力し合って作った作品は、紙芝居・壁新聞・ペープサート(紙人形劇)など工夫を凝らした力作ぞろいです。

- ・夏休み企画「戦時中の暮らしを体験しよう」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期とさせていただきます。
- ・例年9月に開催しております「古文書解読入門講座」は令和3年2月に延期して開催します。

ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。



沼津市明治史料館通信

第142号

令和2年7月25日

編集・発行 沼津市明治史料館
〒410-0051 沼津市西熊堂372-1
TEL 055-923-3335
FAX 055-925-3018

印刷 みどり美術印刷株式会社

富士・沼津・三島3市博物館共同企画展

令和2年度富士・沼津・三島3市博物館共同企画展

採る 捕る 獲る

TORU TORU TORU
富士・沼津・三島の狩猟・採集

ウナギ用ヒコ
石皿 煮石
カマクラ

沼津市歴史民俗資料館
7月4日(土)～8月30日(日)
〒410-0822 沼津市下青島町 2882-1 沼津市歴史民俗資料館内 TEL 055-932-6266
アクセス 沼津駅南口徒歩10分(沼津駅南口から徒歩10分) 沼津駅南口から徒歩10分(沼津駅南口から徒歩10分)
開館時間 9:00～17:00(最終入館 16:30) 休館日 7月11日(月) 7月18日(月) 7月25日(月) 8月1日(日) 8月8日(日) 8月15日(日) 8月22日(日) 8月29日(日)

三島市郷土資料館
9月5日(土)～10月10日(日)
〒411-0005 三島市三島1-2-1 郷土資料館 TEL 055-971-9226
アクセス 三島駅南口徒歩10分(三島駅南口から徒歩10分) 三島駅南口から徒歩10分(三島駅南口から徒歩10分)
開館時間 9:00～17:00(最終入館 16:30) 休館日 9月11日(日) 9月18日(日) 9月25日(日) 10月2日(日) 10月9日(日) 10月16日(日) 10月23日(日) 10月30日(日)

富士山かくや姫コッパル
10月31日(日)～11月24日(日) (9月25日～10月3日 休館)
〒410-0822 沼津市下青島町 2882-1 沼津市歴史民俗資料館内 TEL 055-932-6266
アクセス 沼津駅南口徒歩10分(沼津駅南口から徒歩10分) 沼津駅南口から徒歩10分(沼津駅南口から徒歩10分)
開館時間 9:00～17:00(最終入館 16:30) 休館日 10月11日(日) 10月18日(日) 10月25日(日) 11月1日(日) 11月8日(日) 11月15日(日) 11月22日(日) 11月29日(日)

※状況により開催期間が変更になる場合があります
主催 富士・沼津・三島3市博物館連絡協議会

富士・沼津・三島3市博物館連絡協議会主催の令和2年度企画展「採る捕る獲る一富士・沼津・三島の狩猟・採集」が開催されています。

わたしたちの暮らす富士・沼津・三島の3市域は、富士山・愛鷹山・箱根山、富士川・狩野川・黄瀬川、駿河湾といった豊かな自然に恵まれています。そこでははるか昔から、人々が食料を獲得するため、さまざまな狩猟や採集を行ってきました。本企画展では「とる」という行為をテーマとし、山・川・海、それぞれの環境で行われてきた狩猟・採集について紹介します。

3つの博物館の収蔵資料を一同に見ていただけます。今回の沼津会場は、沼津御用邸記念公園の中にある沼津市歴史民俗資料館です。入館料は無料ですが、公園入園料(大人100円、小中学生50円)が必要です。ぜひ、ご来館ください。